

小学校外国語活動における4年生児童対象のポートフォリオを活用した文字学習の授業設計とその効果

北條 礼子*・加藤 絵理**・松崎 邦守*

(平成29年2月28日受付；平成29年5月8日受理)

要 旨

小学校外国語活動において、これまで自律学習者として意欲的に外国語活動に取り組める高学年児童の態度の養成を目指して、小学校高学年児童を対象にポートフォリオ作成の適応が可能かどうかを検討してきた。その結果、ポートフォリオ作成におけるカンファレンスの役割が大きいことがわかった。そこで、対象者を中学年とし、中学年児童を対象としてもポートフォリオの作成が適用可能かどうかを明らかにすることを目的とし、2015年10月から2016年2月にかけて、教員養成大学附属小学校4年生63名を対象に、活動内容として文字指導を中心に扱い、ポートフォリオ作成過程におけるカンファレンスに特に注目した外国語活動プログラムを設計し、その効果を検討した。その結果、活動内容とカンファレンスは参加者である4年生に好意的に捉えられていたことから、ポートフォリオ作成は4年生が対象であっても自律学習者としての態度養成に効果が期待でき、文字指導中心の外国語活動は4年生に効果があることが明らかになった。

KEY WORDS

portfolio ポートフォリオ conferencing カンファレンス motivation 動機づけ phonics フォニックス
reading and writing of English 文字学習 foreign language activities at elementary school 小学校外国語活動

1. 研究の背景

1.1 小学校外国語活動の現状

外国語活動（英語）は2011（平成23）年度から全国公立小学校の高学年5・6年生において必修化され、週1回年間35回実施されている。

文部科学省による2015年（平成27年）2月の小学校外国語活動実施状況調査の結果によると、小学5、6年生の70.9%が「英語が好き」、また91.5%が「英語が使えるようになりたい」と回答していた。ここから、英語が好きな高学年児童は7割であるが、英語が使えるようになりたいと考えている高学年児童は9割強であることがわかる。

外国語活動では英語嫌いを生み出さないことが基本理念（文部科学省、2004）であったが、同活動が必修化された高学年時点において、英語に消極的な態度を示す児童が相当数いることも報告されている（横石・北條、2013）。同活動の必修化の目的が英語嫌いを作らないことであったにもかかわらず、横石・北條は、同活動に対して「低意欲・高不安」の状態になっている子どもが両学年においてそれぞれ38%存在していたと述べている。また、中学校入学時に「英語が好き」であり、「中学校で英語を学ぶことが楽しみ」と感じる生徒が50%に達していないことから、吉田（2009）は小学校時代の英語の学習内容が影響している可能性が高いと述べている。

現在、5年生時点で、児童の動機づけを低下させない手立てとして、5年生児童の知的欲求に合致するいくつかの手立てが考えられる。具体的には、文字学習、他教科関連内容を取り入れた活動（内容言語統合型学習：CLIL）、国際交流、ソーシャル・スキル・エデュケーションを組み込んだ活動や自律的学習態度の養成に効果があるポートフォリオの活用である（北條・松崎ほか、2013）。

また、2013年12月に文部科学省は、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を、さらに本実施計画発表後に立ち上げられた「英語教育の在り方に関する有識者会議」は2014年9月に「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革五つの提言～」を発表した。以上において現行5年生から行われている外国語活動を3年生からと、開始時期を早め、5年生からは教科としての「英語」を導入するという提案が行われている。

高学年において外国語活動が英語科として教科になり、外国語活動が中学年の3年生から開始されることになったことから、これまで英語学習への動機づけの向上に効果が実証されている、文字指導とポートフォリオを組み込んだ活動が中学年児童にとっても効果があるのかどうかを検討することは意味があると考えられる。

1.2 小学校外国語活動における文字指導

2015年（平成27年）2月に文部科学省が行った小学校外国語活動実施状況調査の結果から、中学1、2年生の小学校の英語授業に対する意識では、中学校の英語の授業に役立ったことかという問いに対し、中学1年生の8割以上が「アルファベットを読むこと」「アルファベットを書くこと」と回答している。また、同調査において小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったことという問いに対して「英単語を書くこと」（83.7%）が最も高く、次いで「英語の文を書くこと」（80.9%）が多く、「英単語を読むこと」（80.1%）、「英語の文を読むこと」（79.8%）の順になっている。ここから、小学校高学年の段階で、児童の「読む」「書く」を含めた文字学習への知的要求が高まっていることが見て取れ、現在、小学校段階では行われていないことが多い、英語の文字の読み書きに関する児童の関心が高い状況であることがわかる。

さて、文字指導であるが、筆者は本学の附属小学校において継続的に英語の出張授業を実施しているが、小学生は中学年であっても、特に書くことに対する興味・関心が強いことから、数年前からフォニックス指導により、アルファベットの読み方を指導すると同時に、アルファベットや単音節の英単語、簡単な英文を書くことも取り入れている。30分のモジュールで授業をしているため、書くことに十分な時間が取れないこともあり、場合によってはA3サイズのアルファベットや英単語を書く宿題が出されることもある。しかし、子どもの反応は、3年生であっても、嫌がる子供は少なく、喜んでかつ楽しんで書くことに取り組んでいる姿が見られた。

1.3 ポートフォリオについて

ポートフォリオは、どのようなものでも収集する雑多ファイルではなく、一言でいうと目的つきファイルである。ポートフォリオは、学習成果を収集しながら学習過程を時系列に記録することができ、学習者は収集された成果を基に自分自身の学習を定期的に振り返ることにより修正していくことができる。さらに、協同学習という観点から、カンファレンスではそれぞれの学習成果についてお互いに発表し合うことで学習者間の学び合いを促進することが可能となる。

筆者らは、これまで、学習者の自己調整学習能力を高めるためにポートフォリオを教授ツールとして活用し英語学習の様々な教育分野でポートフォリオを活用してきた。ポートフォリオ作成には、学習の指針を示すガイドラインの事前明示、授業の振り返りを記述するゴールカードの実施、ポートフォリオ作成をとおして学習したことを定期的に話し合いをしながら振り返る場としてのカンファレンスの実施を組み込んできた（松崎2003；2004；松崎・北條2007）。さらに、小学生高学年児童に対しても、ポートフォリオが教授ツールとして効果が期待されることと、特にカンファレンスの効果が高いことが明らかになった（北條・松崎他、2013, 2014, 2015）。今回の研究では特にポートフォリオを組み込んだ外国語活動が、外国語活動が始まる中学年児童を対象としても適用が可能なのかどうかを検討することにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、小学校外国語活動における4年生児童対象のポートフォリオを活用した文字学習の授業を設計し、その効果を明らかにすることである。

3. 研究の方法

3.1 実験実施時期： 本研究は2015年10月から2016年2月にかけて実施した。

3.2 対象者： 本研究の対象者は、教員養成系J大学附属小学校4年生63名（有効解答・回答数）であった。

3.3 測定具： 本研究の測定具として以下の5点を用いた。具体的には、①ポートフォリオを活用した外国語活動プログラムに関する5段階尺度形式6項目、②児童が作成したポートフォリオ、③事前・事後テスト（アルファベットの書き取りテスト25問）、④事前・事後テスト（フォニックスに関するテスト10問）、⑤英語の4技能への希望に関する4項目である。

3.4 分析方法： 直接確率計算（母比率不等）、分散分析、マクネマー検定を用いて分析した。

3.5 プログラム開発の留意点：

学習プログラムの設計に際し、次の2点に留意した。まず、学習内容として、フォニックス・ルール学習（マジックe、礼儀正しい母音）については、絵カードやDVD教材を用いて導入すること、その後、学んだフォニックス・ルールを用いたチャンツやゲーム活動（クロスワードゲーム、買い物ゲーム、BINGO）、書く活動（Enjoy Writing）を考案した。Enjoy Writingの活動については、まず、大文字と小文字の違いなど、書くポイントを確認し、書き順

を確認した後、空書きをした後、児童がワークシートで文字を書く練習（なぞり書き、写し書き）をするという手順で行った。ワークシート作成の工夫点としては、①用いる単語は、音の足し算、マジックe、礼儀正しい母音で読める単語を用いたこと、②それぞれの文字の書き順がわかりやすいように、画数によって色分けをしたことがあげられる。エンジョイ・ライティングの一例を図1に示す。

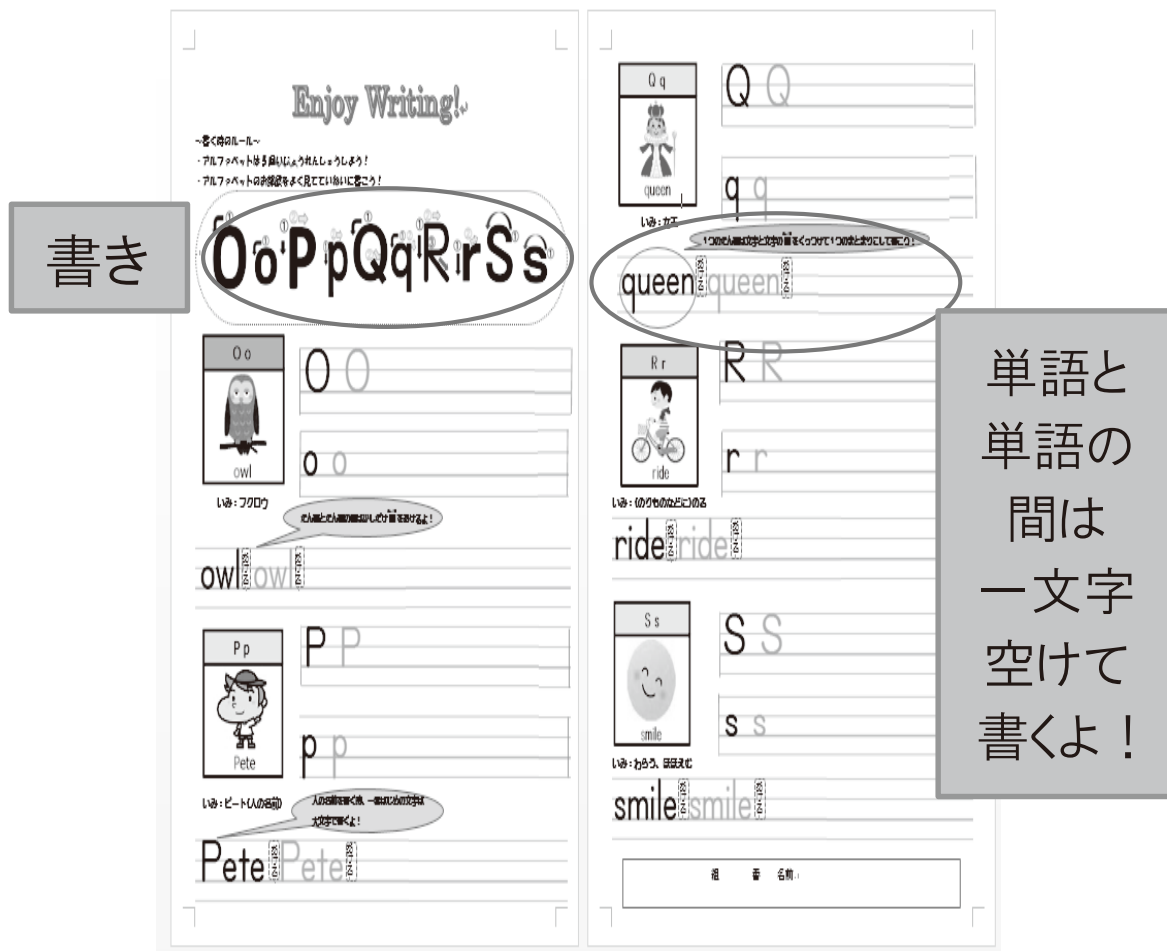


図1 エンジョイ・ライティングの例

また、ポートフォリオの活用については、これまで筆者らが実践してきた研究結果から、ポートフォリオ作成過程で重要な活動であることが明らかになっている、①ガイドラインの事前明示（時間制限のため簡略化した説明を実施）、②毎回の授業の振り返り記入、③カンファレンス（仲間との学び合いの活動）の実施の3つの活動を組み入れ、特にカンファレンスに重点を置いた。

3.5.1 活動計画

開発した学習プログラムの活動では1モジュール30分で全10回の授業を実施した。第1時間目には事前テストとポートフォリオの説明（ガイドライン）、第2時から第7時まではフォニックス・ルール（音の足し算、マジックe、礼儀正しい母音）を用いて単音節の英単語を読む活動と大文字（A～Z）、小文字（a～z）を書く活動、第8時間目にはカンファレンスについての説明を行い、第9時間目にはグループ編成をした上で、グループごとに発表を行い、友人の発表を聞きながらコメントを書く活動を行った。さらに、第10時間目には、児童はカンファレンス後のカンファレンス・リフレクション・シートに当たる活動として、今後の英語学習に生かせそうなこと、やってみたいことをシートに記入した。

3.5.2 カンファレンスと仲間との学び合いの活動

カンファレンスは活動の終わりの8～10回目に実施した。ここでのカンファレンスは仲間との学び合いの活動である。カンファレンスに必要な書式は、通常カンファレンス・シートとっているものを「学び愛シート」（以下参

照)とし、カンファレンス直後に記入するカンファレンス・リフレクション・シートは書式を簡略化し、「学び愛シート」の裏面に印刷した。カンファレンスの説明は、活動8回目において用いたものを以下の図2～図4に示す。

次回《2/5(金)》は「学び愛」です！！

学び愛とは、自分のこれまでの学習をふりかえり、それを友だちと共有しあい、コメントをしたりもらったりして感じたことをこれからの自分の学習に生かしていく活動です。

【これからの手順】

1. 自分のこれまでの学習をワークシートやふりかえりシートを見ながらふりかえる。
2. 自分が前よりできるようになったことやよくなったことを学び愛シートの「1 ふりかえりをしよう」に書く。
ここまではしゅくだい！
かならずやってきてね！
3. 4人班を作る。(3人でもOK) ← 2/5(金)はここからやるよ
4. 1人が発表し、発表者以外の人には発表を聞く。(班の全員が発表するまでくりかえす)
 聞いていた人は発表した人にコメントをカードに書いて発表者にわたす(心の温まるようなコメントを書こう！)
5. もらったコメントや友だちの発表を聞いて自分の学びに生かせそうなことを学び愛シートの「2 学び愛」に書く。

2/5(金)の授業で学び愛シート

をつかいます！！

わすれずに持ってきてね！

※友だちどうして声をかけあおう！




図2 カンファレンス(学び愛)の説明

2016年2月5日

学び愛シート

4年 組 番 名前 _____

※やくそく



アルファベット君

書き方の悪い例

- ・「No!! (とくになし)」
- ・「例と同じ」

※友だちが聞いてもわからないので、自分の言葉で伝えよう!

①について

- ×「クロスワードが楽しかった。」
- ×「クロスワードがよくわかった。」

※何が楽しかったのか、よくわかったのかくたいてきにくわしく書こう!

②について

- ×「②英語の書き方がよくわかった」

※何がよくわかったのか相手にもわかるように書こう!

書き方のよい例

○「①クロスワードパズルでは見たことがない単語もマジック e のルールをつかったら、読むことができうれしかったです。」

○「②はじめて単語の書き方を学びました。はじめはぜんぶつなげて書いていたけど、単語と単語のあいだはあけることを知ることができたので、今ではしっかり書くことができるようになりました。」

1 ふいかえいをしよう

①読む活動(音のたし算・マジック e・れいぎ正しい母音)や②書く活動(エンジョイライティング)をして、前よりできるようになったこと/よくなったことを、それぞれ①と②について、友だちにつたわるようにくわしく書きましょう。

『これから、大学英語についてふりかえたことをはっぴょうします。』

①読む活動かっどうをして前よりできるようになったこと/よくなったことは、

②書く活動かっどうをして前よりできるようになったこと/よくなったことは、

いじょうです。コメントをよろしくおねがいます。』

図3 カンファレンス・シート(学び愛シート)

2 学び愛

友だちの発表を聞いて、これからの自分の学習に生かせようなことを、やってみようと思ったことを書こう！！

友達からもらったコメントをはっておこう！

<p>友だちのコメントをはろう！</p>	<p>友だちのコメントをはろう！</p>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>※コメントを書く注意！！</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>思いやりのあるコメントを書こう！</p> </div> <p>「すごいね」「よかったね」「がんばってね」 だけでは、せっかく発表したのに、発表者はもらっても うれしくないよね。 友だちがもらって心があたかくなるようなコメントを書こう！</p> </div>	
<p>友だちのコメントをはろう！</p>	<p>友だちのコメントをはろう！</p>

図 4 カンファレンス・リフレクション・シート

4. 研究の結果

4.1 外国語活動におけるポートフォリオ活用に対する評価について

4.1.1 ポートフォリオのカンファレンスについての評価

外国語活動におけるポートフォリオの活用に関する 5 段階尺度形式 6 項目の頻度数を 2 段階（「はい、少しはい」を「肯定」、「どちらでもない、少しいいえ、いいえ」を「それ以外」）として再集計した度数と、それを基にした

「2:3」の母比率不等の直接確率計算結果は表1のとおりである。

表1 カンファレンスに関する6項目の回答数 (N=63)

	項目内容	肯定	それ以外	直接確率計算結果 <i>p</i>
1	カンファレンスで自分の学習を振り返ることができた	47	16	.00 **
2	友だちの発表を聞いて友だちの良いところに気づけた	52	11	.00 **
3	友だちの発表を聞いて自分も頑張ろうと思った	50	13	.00 **
4	自分の学習に活かせそうなことを見つけられた	38	25	.00 **
5	友だちからのコメントで、もっと頑張ろうと思った	47	16	.00 **
6	カンファレンスはやってよかった	40	23	.00 **

** *p* < .01

表1から、この6項目に関する直接確率計算の結果、全6項目が1%レベルで有意に肯定的な回答が中立と否定的な回答数より有意に多かった。以上から、本研究の教授ツールとしてのポートフォリオは、4年生児童から肯定的な評価を受けていたと考えられる。また、カンファレンスでの発表を聞いて友だちのよいところを見つけたり、自分の学習を振り返ることができることや、友だちの発表を聞いて自分もがんばろうと思う項目への反応がよく、中学年の4年生においてもポートフォリオの作成過程におけるカンファレンスが重要な役割を果たすことが確認されたと考えられる。

北條・松崎(2013)の研究結果では、5年生を対象とした外国語活動においてポートフォリオのカンファレンスが概ね高い評価を受けていたが、本研究でもカンファレンスに関して同様に高い評価を受けた。この先行研究は、学習したフォニックス・ルールを用いれば読める単語が含まれている、英語による映画の一場面をみて、英語のセリフの練習をした後、画面(動画)をみながら、気持ちを込めて短いセリフを言うという学習内容であり、今回は書くことを積極的に取り入れた文字学習が主な活動内容であった。直接比較することはできないが、児童の文字学習に対する関心が高いこともこの結果の理由となっている可能性が考えられる。

4.1.2 カンファレンス・シートの自由記述について

カンファレンス・シートでは、「1 ふりかえりをしよう ① 読む活動(音のたし算・マジックe・れいぎ正しい母音や② 書く活動(エンジョイ・ライティング)をして、前よりできるようになったこと/よくなったことを、児童はシートに自分の意見を書き込んだ。①については、「アルファベットのはつおんと、えいごの読み方です。はつおんは、とくにうまくなったので、うれしいです。」や「音のたし算などを使って、単語を読めるようになった事です。私は単語を読む事が苦手だったけれど、音のたし算などを使って正しく単語をよめるようになってうれしいです。これから、より練習して、スラスラと単語を読めるようになりたいです。」などのコメントがみられた。また、②については、「くせだった書き方を直すことができ、字がきれいになったことです。」や「エンジョイ・ライティングで大きさ、形、書き順をいしきしてきれいに書けるようになった事です。私は書き順がめっちゃくちゃだったけれど、エンジョイ・ライティングで、大きさ、形、書き順を意識して正しくきれいに書く事が出来てうれしいです。これから、より練習してスラスラと書けるようになりたいです。」などのコメントがみられた。

4.2 事前・事後テストについて

4.2.1 アルファベットの書き取りテスト

アルファベットの書き取りテストは「C c」を例題とし、大文字9問(A, F, I, K, L, M, O, T, Z)、小文字16問(a, b, e, g, h, j, n, p, q, r, s, u, v, w, x, y)の事前、事後テストを実施した。全25問の平均(M)と標準偏差(SD)を求め、さらに分散分析を行ったところ、表2のとおり事後テストの平均が事前より1%レベルで有意に向上していた($F(1, 62)=54.13, p<.01$)。

表2 アルファベット書き取りテスト25問の平均(M)と標準偏差(SD)及び分散分析の結果 (N=63)

事前テスト		事後テスト		分散分析結果		比較	
<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	$F(1, 65)$	<i>p</i>	事前	事後
16.48	6.48	19.86	4.97	54.13	**		<

** *p* < .01

また、マクネマー検定の結果は表3に示すとおりであるが、「b, d, e, g, j, K, L, n, q, r, s」が1%水準で、「F, M, h, p, v, w」が5%水準で正答数が有意に向上し、「A, I, O, T, Z」については有意差はみられなかった。

表3 アルファベット書き取りテスト各問のマクネマー検定結果 (N=63)

1%水準で有意に向上	b	d	e	g	j	K	L	n	q	r	s
5%水準で有意に向上	F	h	M	p	v	w					
有意差なし	A	I	O	T	Z						

4.2.2 フォニックスに関するテスト

フォニックスに関するテストは、音の足し算に関する4問、マジックeに関する3問、礼儀正しい母音に関する3問の計10問により実施した。それぞれの平均(M)と標準偏差(SD)ならびに分散分析結果は表4に示すとおりである。表4から、フォニックスに関する問題全10問の事前テストのMは5.11, SDは2.55であり、事後テストのMは6.86, SDは2.79であり、分散分析の結果、1%水準で有意に向上していた($F(1, 62)=50.05^{**}$)。次に、下位テストの結果については、まず、音の足し算に関する4問については、事前テストのMは2.79, SDは1.13であり、事後テストのMは3.24, SDは0.99であり、分散分析の結果、1%水準で有意に向上していた($F(1, 62)=18.57^{**}$)。次に、マジックeに関する3問については、事前テストのMは0.93, SDは1.02であり、事後テストのMは1.79, SDは1.16であり、分散分析の結果、1%水準で有意に向上していた($F(1, 62)=34.28^{**}$)。最後に、礼儀正しい母音に関する3問については、事前テストのMは1.38, SDは1.03であり、事後テストのMは1.83, SDは1.11であり、分散分析の結果、1%水準で有意に向上していた($F(1, 62)=16.22^{**}$)。

表4 フォニックスに関するテスト10問の平均(M)と標準偏差(SD)及び分散分析の結果 (N=63)

	事前テスト		事後テスト		分散分析結果		比較	
	M	SD	M	SD	F(1, 65)	p	事前	事後
全10問	5.11	2.55	6.86	2.79	50.05	**		<
音の足し算4問	2.79	1.13	3.24	0.99	18.57	**		<
マジックe 3問	0.93	1.02	1.79	1.16	34.28	**		<
礼儀正しい母音3問	1.38	1.03	1.83	1.11	16.22	**		<

** $p < .01$

さらに、マクネマー検定の結果は表5に示すとおりであるが、全体では、bed, cake, five, note, snow, blue, redの7語の正答数が1%水準で有意に向上し、dog, week, sunについては有意差はみられなかった。

表5 フォニックスに関するテスト各問のマクネマー検定の結果 (N=63)

1%水準で有意に向上	bed	cake	five	note	snow	blue	red
5%水準で有意に向上	なし						
有意差なし	dog	week	sun				

4.3 英語の4技能への希望に関する4項目の集計結果と直接確率計算結果 (N=63)

英語の4技能への希望に関する4項目について事後にアンケートを実施したが、5段階尺度形式6項目の頻度数を2段階(「はい、少しはい」を「肯定」、「どちらでもない、少しいいえ、いいえ」を「それ以外」と再集計した度数と、それを基にした「2:3」の母比率不等の直接確率計算結果は表6のとおりである。

表6 英語の4技能への希望に関する集計結果と直接確率計算結果 (N=63)

	項目内容	肯定	それ以外	直接確率計算結果
1	英語を読めるようになりたい	57	6	.00 **
2	英語を書けるようになりたい	57	6	.00 **
3	英語を話せるようになりたい	50	13	.00 **
4	英語を聞いて意味がわかるようになりたい	54	9	.00 **

** $p < .01$

表6から、全項目において1%レベルで有意に肯定的な回答が多かった。ここから、中学年の4年生児童であっても、英語の4技能といわれる、「読む、書く、話す、聞く」ことができるようになりたいという希望が同様に強いことがわかった。中学年においても積極的に文字指導を実施していくことは児童の希望に応えることになると考えられる。

5. 今後の課題

本研究の外国語活動におけるポートフォリオを活用し、フォニックスを活用した積極的に書く活動を取り入れた文字学習を中心とした外国語活動は、4年生児童からも肯定的な反応が得られた。また、ポートフォリオでは、特にカンファレンスの有効性が確認された。しかし、カンファレンスの時間の中で、友だちからのコメントを読む時間の確保が難しかったことから、発表ルールのさらなる工夫も必要であると思われる。

引用・参考文献

- 北條礼子・松崎邦守. (2007). 「教授ツールとしてのポートフォリオ活用による英語表現（英作文・スピーチ）学習の効果：看護学生を対象にshow and tell手法を用いた試み」. 『上越教育大学紀要』 26, 287-297.
- 北條礼子・大田亜紀. (2009). 「幼稚園児・小学生の知的好奇心を刺激する英語教育の学習プログラムの構築」. 『教育実践研究』. 第19集. 19-26.
- 北條礼子・君 佳子. (2010). 「文字指導を中心とした小学校英語活動の試み」. 『教育実践研究』. 第20集. 19-26.
- 北條礼子・松崎邦守. (2011). 「ポートフォリオを活用した反省的実践家としての小学校英語教員養成プログラムの設計と試行」. 『上越教育大学紀要』 30, 191-199.
- 北條礼子・君 佳子. (2011). 「小学校英語活動における文字指導の試み」. 『教育実践研究』. 第21集. 1-8.
- 北條礼子・松崎邦守. (2014). 「小学校外国語活動におけるポートフォリオを活用した5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果」. 『上越教育大学紀要』. 33, 181-190.
- 北條礼子・松崎邦守・金安由理. (2015). 「小学校外国語活動におけるポートフォリオを活用した5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果：文字指導とポートフォリオのカンファレンスに注目して」. 『上越教育大学紀要』. 34, 203-212.
- 北條礼子・松崎邦守・藤田真実・中野博幸. (2017). 「小学校外国語活動における6年生児童の動機づけを高めるKinectを活用した国際交流プログラムの開発とその効果」. 36(2), 541-548.
- Klenowski, V. (2002). *Developing portfolios for learning and assessment: Processes and principles*. London: Routledge Falmer.
- 國本和恵. (1998). 「E-mail交換による児童のWriting Skillと海外の文化の認識」. 『日本児童英語教育学会紀要』. 17, 79-90.
- 松崎邦守・北條礼子. (2007). 『ポートフォリオを供述-ストとして活用する授業設計の検討-K看護専門学校における英語のライティング学習を事例として-』. 『日本教育工学会論文誌』. 31(1), 69-77.
- 文部科学省. (2001). 『小学校英語活動実践の手引き』. 東京：開隆堂.
- 文部科学省. (2008). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』. 東京：東洋館出版社.
- 文部科学省. (2013). 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」.
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/.../1343704_01.pdf 2017年2月15日検索.
- 文部科学省. (2014). 「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革五つの提言～」. 2017年2月15日検索. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm
- 文部科学省. (2015). 平成26年度「小学校外国語活動実施状況調査」の結果について.
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1362148.htm 2016年2月10日検索.
- 日本英語検定協会. (2013). 『小学校での外国語活動及び英語活動に関する現状調査』. 2016年7月1日検索.
<http://www.eiken.or.jp/eiken/group/result/>
- 野呂忠司. (2007). 「小中連携と文字指導」『小学校英語と中学校英語を結ぶ-英語教育における小中連携-』. (松川禮子・大下邦幸編著). 東京：高陵社書店. 102-118.
- Shöne, D. (1983). *The reflective practitioner: How professional think in action*. NY: Basic Books.
- 山本淳子. (2011). 「小学校英語教育における国際交流の役割と意義」. 『新潟経営大学紀要』. 17, 103-116.
- 横石和子・北條礼子. (2013). 「児童の不安と学習意欲の関連性の類型に関する調査」. 『JASTEC研究紀要』. 32, 37-58.
- 吉田研作. (2009). 『『中学校英語に関する基本調査』から示唆されるもの』. Benesse教育研究開発センター 『第1回中学校英語に関する基本調査報告書』. 2017年2月16日検索.
http://benesse.jp/berd/center/open/report/chu_eigo/hon/pdf/data_02.pdf

The Development and Effects of Foreign Language Activities Utilizing Portfolios Aimed at Enhancing the Motivation of 4th Graders for Learning English: Focused on Learning Letters and Conferencing in Developing Portfolios

Reiko HOJO* · Eri KATO** · Kunimori MATSUZAKI*

ABSTRACT

In April of 2011, foreign language (English in principle) activities were formally introduced into 5th and 6th graders of all the public elementary schools in Japan. In addition, by 2020, the activities will be formally introduced into 3rd and 4th graders and English will be a formal subject at 5th and 6th graders of all the public school in Japan. However, since 2011, it has been reported that about 38% of both 5th and 6th graders have come to dislike the English activities, it is crucial to enhance the positive attitudes of 5th and 6th graders toward these activities, so learning reading and writing English as well as portfolios can be expected to play this role of enhancing the students' motivation toward them. However, since it has not been investigated whether the same type of learning activities are effective for 4th graders, it would be effective to design and investigate their effects.

From October in 2015 to January in 2016, 63 4th graders participated in this study, which was based on the results of the projects by the authors, utilizing portfolios which aimed to nurture upper graders' reflective attitudes toward learning English. Data was obtained through pre- and post tests concerning reading and writing both Roman letters and easy English short words, as well as pre-and post questionnaires, including the students' comments at conferences held once at the end of the project during the study. First of all, the results of the questionnaire revealed that the project including both reading and writing English, and utilization of the portfolios was evaluated positively by the participants. Secondly, the comments supported the results. Finally, the results of the quizzes showed that the program was effective in improving the students' abilities of reading and writing of English words.